

市内遺跡調査報告書

第 12 集

2021

茨城県石岡市教育委員会

例 言

1. 本書は石岡市教育委員会が行った下記の遺跡調査に関する報告書である。また、市内出土遺物についての資料紹介等も収録した。

試掘調査 宇治会新立遺跡（平成 21 年度）

発掘調査 常陸国分寺跡（平成 11 年度）

尼寺ヶ原遺跡（平成 25 年度）

根古屋遺跡（第 5 次）（平成 25 年度）

2. 調査は石岡市教育委員会が主体となって実施した。
3. 現地調査は安藤敏孝・谷仲俊雄が担当した。また、調査・整理の参加者は、下記の通りである。
五十嵐正 岡田正夫 北山敏道 小松崎利夫 酒井 洋 永瀬敬子 牧田保身 山口晋一 吉田幸男
石崎亘子 大野幸枝 城戸佳七子 木村友子 佐々木博子 鈴木真紀子 長谷川則子 吉野文子
なお、遺構・遺物の実測・トレースは谷仲・木村・佐々木・長谷川が、採拓は石崎・大野・城戸・木村・佐々木・鈴木・長谷川・吉野が行った。
4. 本書の執筆は谷仲が行った。なお、Ⅱ－1 は調査終了時に担当者が作成した報告（平成 12 年 3 月）より抜粋した。
5. 調査に関する遺物・図面・写真等の資料はすべて石岡市教育委員会で保管している。
6. 現地調査及び報告書刊行に当たっては下記の方々からご指導・ご協力をいただいた。ここに記して、感謝申し上げる次第である。（敬称略・五十音順）

茨城県教育庁文化課 小美玉市玉里史料館 川井正一 小玉秀成 本田信之

7. 事務局は下記の通りである。
児島裕治（教育長）、豊崎康弘（教育部長）、吉澤房江（次長）、原田和宣（文化振興課長）、箕輪健一（文化振興課課長補佐）、小杉山大輔・谷仲俊雄（文化振興課係長）、鈴木万梨映・金澤史典・中村光宏・竹内智晴・島田貴恵・中村菜摘（課員）

凡 例

1. 本書使用の方位は磁北である。ただし、都市計画図を利用した調査地点位置図については座標北である。
2. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、土器・石器・石製品 1／3、平瓦・丸瓦 1／6、銭貨 1／1 を基本とした。なお、それ以外の縮尺の場合はその都度、実測図に縮尺を明記した。

目 次

例 言	3 木間塚遺跡（第16地点）……………13
凡 例	4 弥陀ノ台遺跡……………13
目 次	5 鹿の子遺跡（第51次）……………14
I 試掘調査	6 長堀古墳群……………14
1 宇治会新立遺跡……………1	IV 埋蔵文化財包蔵地の新規登録と範囲変更
II 発掘調査	(平成27年度～令和2年度)……………16
1 常陸国分寺跡……………3	写真図版
2 尼寺ヶ原遺跡……………4	報告書抄録
3 根古屋遺跡（第5次）……………7	
III そのほかの調査	
1 府中城跡（第3地点）……………10	
2 杉ノ井遺跡（第7・8地点）……………10	

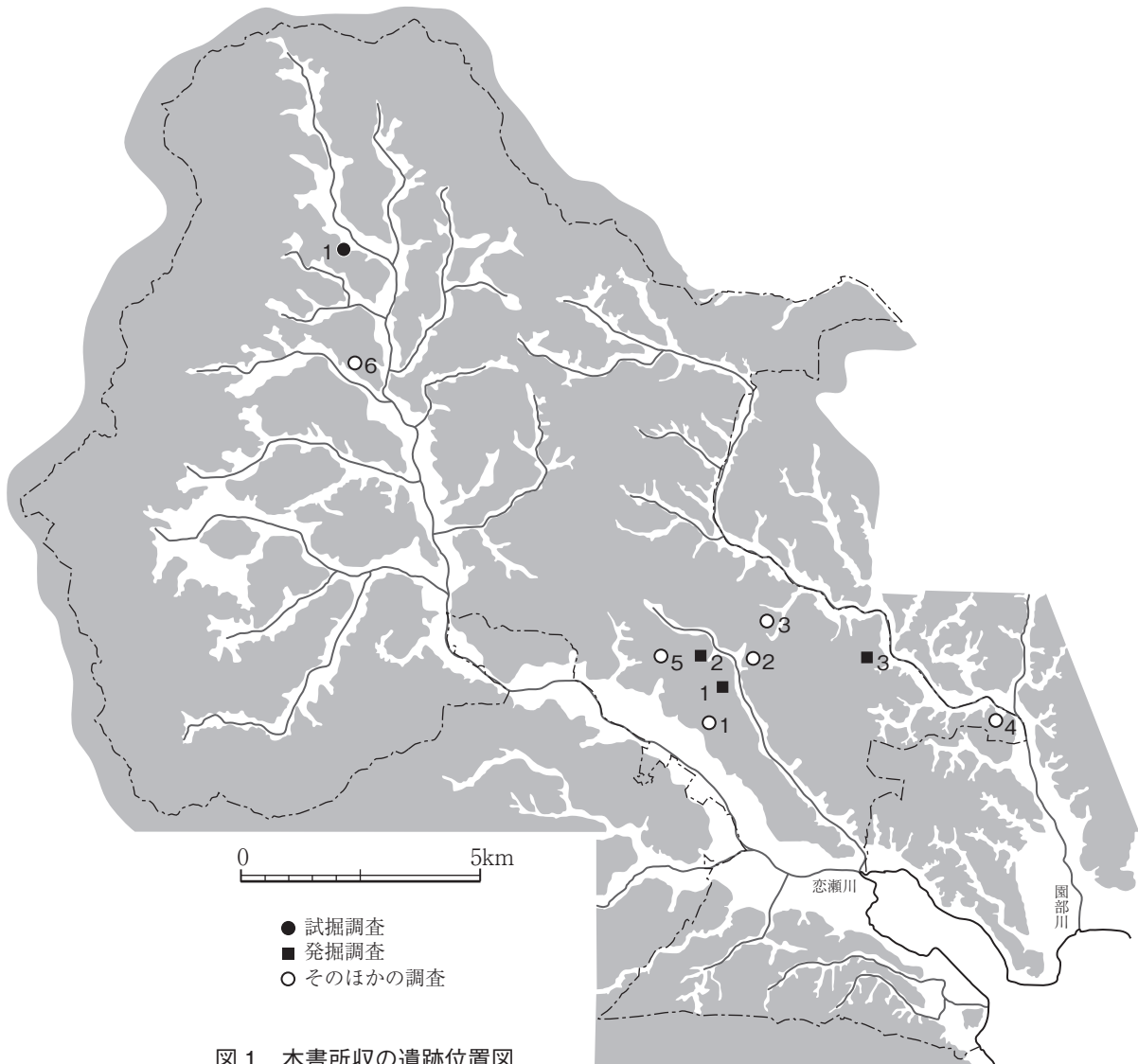


図1 本書所収の遺跡位置図



図3 木間塚遺跡・杉ノ井遺跡ほか調査地点位置図 (S=1/10,000)

I 試掘調査

1 宇治会新立遺跡

①所在地 石岡市宇治会字新立 2132 番 1 ②開発面積 1,125m² ③調査日 平成 22 年 1 月 19 日～ 20 日 ④調査原因 駐車場 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 周知の遺跡の範囲外であるが、現地踏査の結果、土器が採集されたことから試掘調査を行った。開発区域内に 47ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し、遺跡の有無を確認した。開発区域の南東隅において古墳時代中期の竪穴建物跡 1 棟、時期不明の土坑 1 基を確認した。

なお、遺跡が確認された南東隅および周辺を「宇治会新立遺跡」として、平成 22 年 1 月 25 日付で茨城県教育委員会に「遺跡発見の通知」を提出している。

SI01 T-1 および T-3 において確認した。SK01 と重複し、先行する。東西長 3.7m の方形で、南側は開発区域外となる。北西隅で古墳時代中期中葉の高杯がまとまって出土している。

⑦遺物 1～6 は SI01 より出土した土師器の高杯。1 は口径 160mm、器高 125cm、底径 136mm。橙褐色。砂粒（～中・多）・白色粒

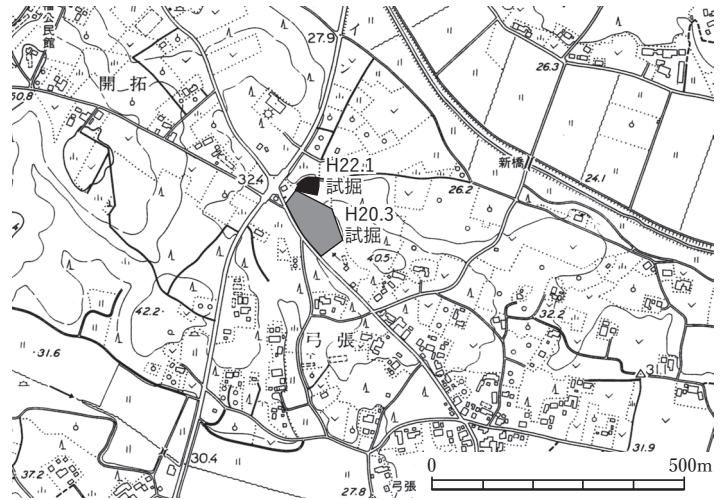


図 4 宇治会新立遺跡 調査地点位置図 (S=1/15,000)

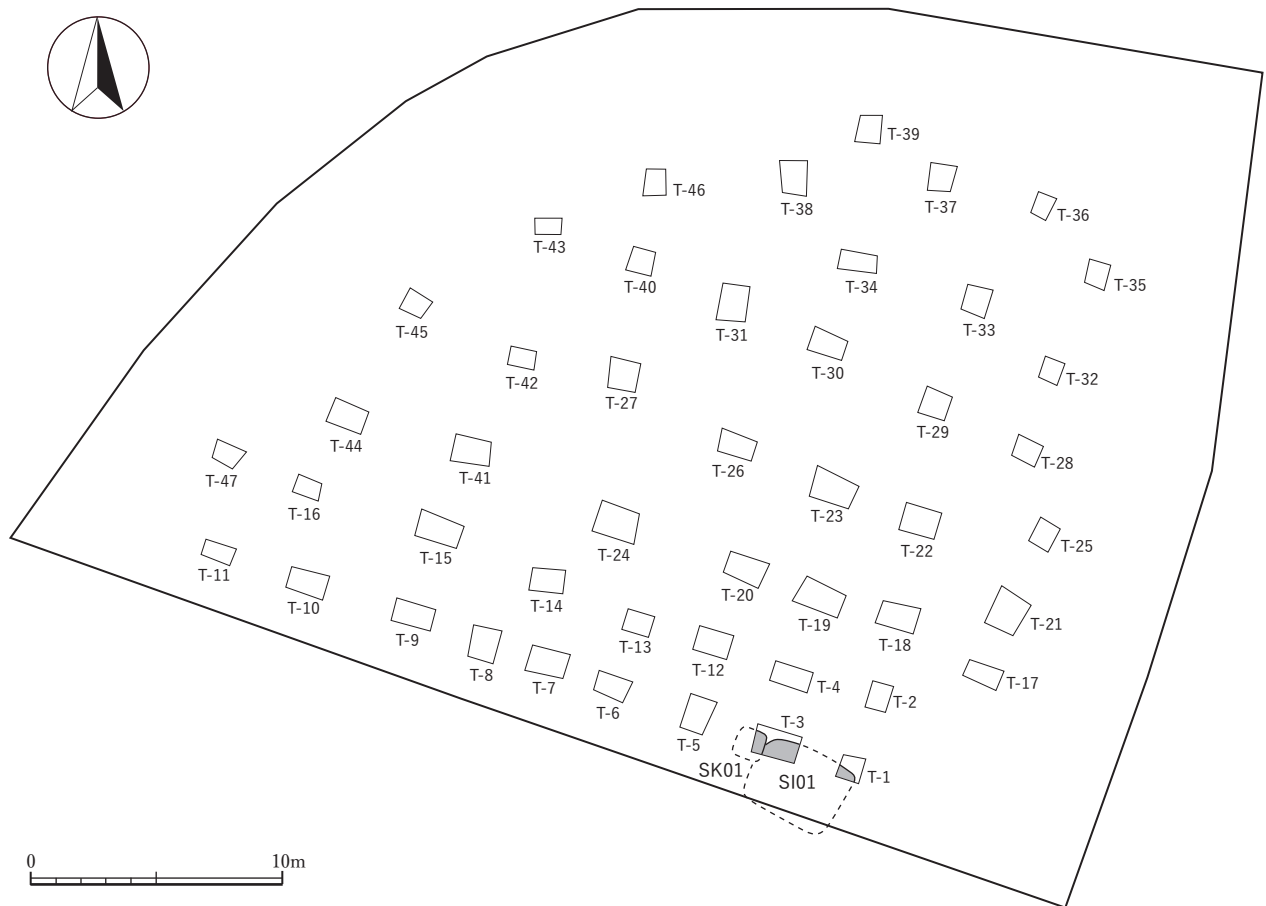


図 5 宇治会新立遺跡 全体図 (S=1/300)

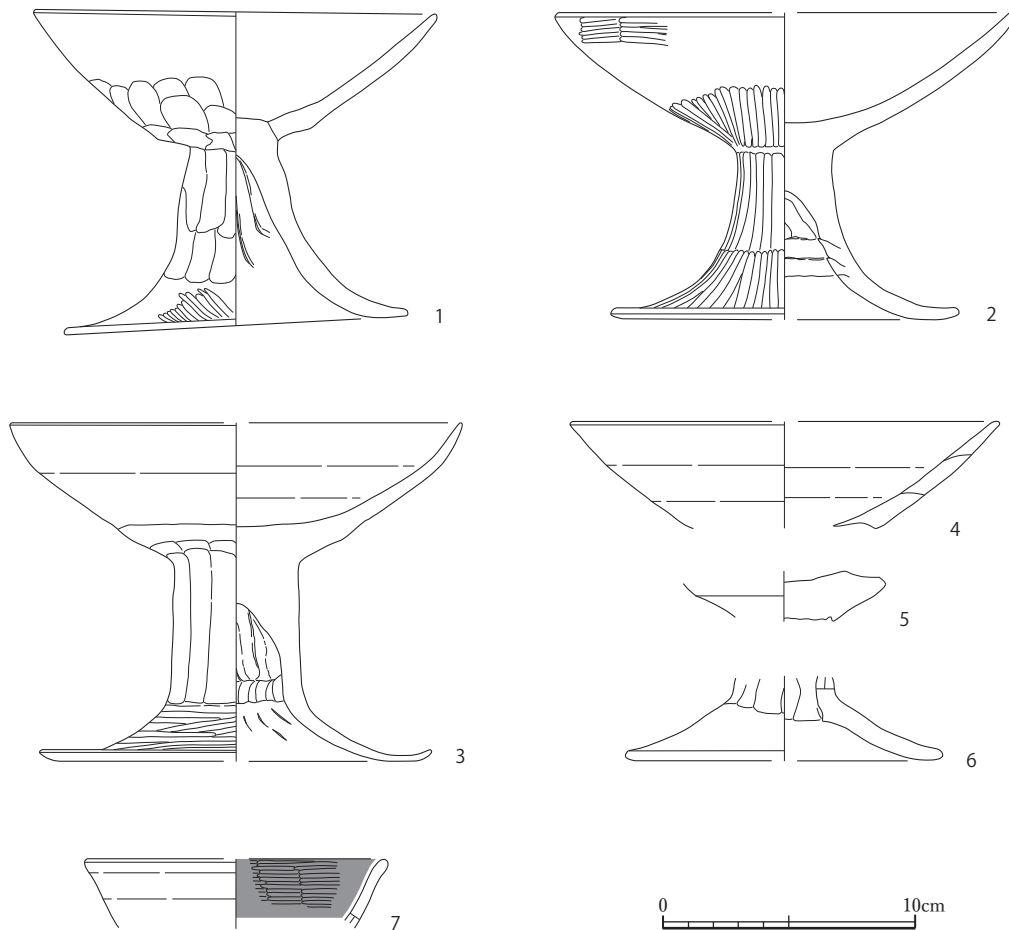


図6 宇治会新立遺跡 出土遺物 (S=1/3)

(~小)・透明粒(極小・少)を含む。焼成良好。ほぼ完存。2は口径178mm(復元)、器高123mm、底径138mm(復元)。外面橙褐~にぶい褐色、内面橙褐~淡褐色。白色粒(~大・多)・赤色粒(~小・微)・砂粒(~中・多)・透明粒(極小・少)を含む。焼成良好。杯部70%・脚部40%残存。3は口径180mm(復元)、器高135mm、底径156mm(復元)。外面褐~淡褐色、内面褐~暗褐色。白色粒(~小)・透明粒(極小・微)・砂粒(~大)を含む。焼成良好。杯部50%・脚部70%残存。4は口径170mm(復元)。褐~淡褐色。白色粒(~中・多)・赤色粒(~小・微)・砂粒(~大)を含む。焼成良好。図示中25%残存。5は外面暗赤褐色、内面赤褐~暗赤褐色。白色粒(~小・多)・透明粒(極小・少)・砂粒(~大)・赤色粒(~大・少)を含む。焼成良好。図示中完存。6は底径126mm。暗褐~淡褐色。白色粒(~小)・透明粒(極小)・砂粒(~中)・赤色粒(~小・少)を含む。焼成良好。図示中25%残存。7はT-12より出土した土師器の杯。口径120mm(復元)。外面褐~にぶい褐色、内面黒色。内面炭素吸着による黒色処理。白色粒(極小・微)・砂粒(極小・微)・骨針(~中・多)を含む。焼成良好。



写真1 T-3(北西から)

Ⅱ 発掘調査

1 常陸国分寺跡

①所在地 石岡市府中五丁目 922 番 ②調査面積 20㎡ ③調査日 平成 12 年 2 月 21 日～ 23 日 ④調査原因 大師堂建替 ⑤調査担当者 安藤敏孝 ⑥調査概要 大師堂の建替に伴い、発掘調査を実施した。調査地は中門と金堂を結ぶ回廊に囲まれた区画、金堂院内に位置する。調査の結果、風倒木や木根などによる攪乱のみで、遺構は確認されなかった。上層面では焼土が広がっていたが、覆土からはビニールや近現代の陶器片が出土したことから、比較的新しい時代の痕跡と思われる。軒丸瓦 1 点や丸瓦、平瓦、土師器が出土している。



◆発掘調査箇所（年次別）		
昭和43年度	平成6年度	平成21年度
昭和52年度	※推定範囲	平成28年度
昭和56年度	平成8年度※推定範囲	平成29年度
昭和57年度	平成11年度	平成30年度
昭和61～平成元年度	平成15年度	

図7 常陸国分寺跡 主要伽藍配置図 (S=1/1,500)

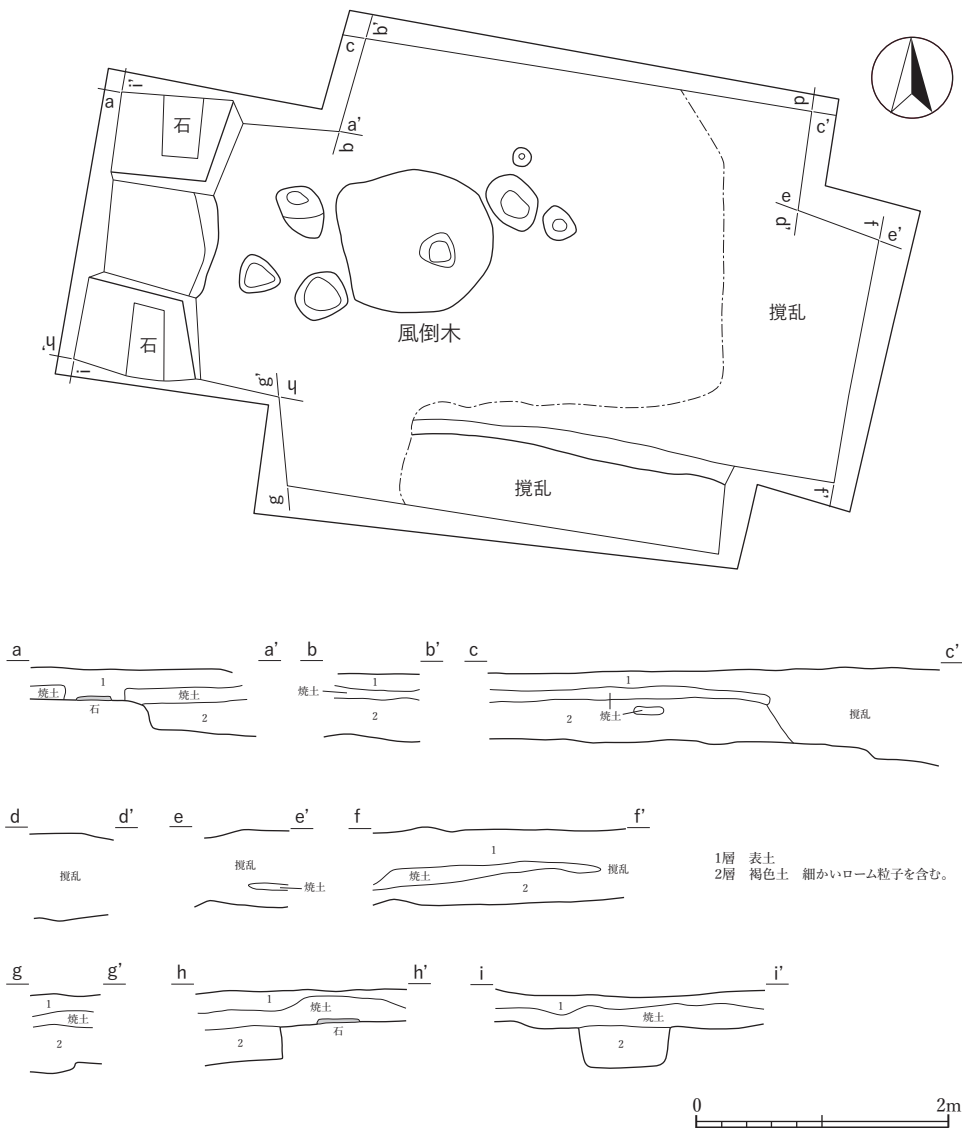


図8 常陸国分寺跡（大師堂建替）全体図（S=1/60）

2 尼寺ヶ原遺跡

①所在地 石岡市若松三丁目8712番1の一部 ②調査面積 70㎡ ③調査日 平成25年12月3日～24日
 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 尼寺ヶ原遺跡は、恋瀬川と山王川に挟まれた台地上、常陸国分尼寺跡の周辺に所在する（遺跡番号08-205-061）。個人住宅建設工事に伴い、「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」照会文書の提出があり、市教育委員会では平成25年11月13日に試掘調査を行った。開発区域内に9ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し遺跡の有無を確認したところ、奈良・平安時代の遺構を確認した。

11月18日付けで茨城県教育委員会あて「埋蔵文化財発掘の届出」が提出された。茨城県教育委員会より11月25日付けで、建物部分及びその周辺の給排水管部分については工事着手前に発掘調査を実施するように、そのほかの給排水管部分については工事にあたって市教育委員会が立ち会うように通知があった。

これらを受け、建物部分及びその周辺の給排水管部分の発掘調査を12月3日より着手し、12月24日に終了した。表土剥ぎおよび埋め戻しは重機にて行い、その他作業は人力にて行った。

確認された遺構は、9世紀前半の掘立柱建物跡1棟（SB01）およびピット6基（SP01～SP06）である。

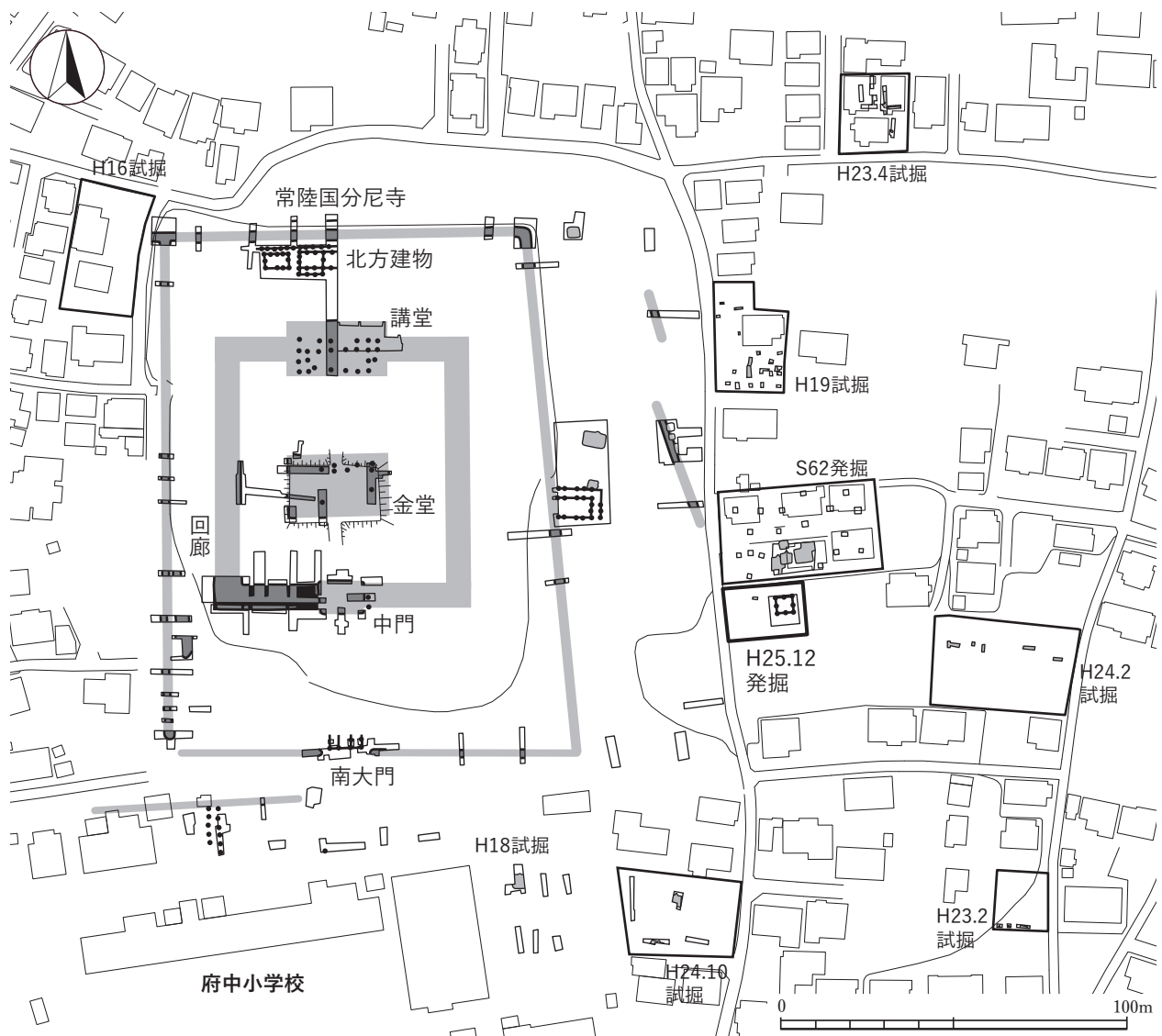


図9 尼寺ヶ原遺跡 調査地点位置図 (S=1/2,000)

⑦遺構 SB01 主軸方位 N-2°-E、南北2間以上、東西2間以上の掘立柱建物跡。規模は、南北方向4.5m以上、東西方向4.8m以上。各柱穴の柱間は、南北方向が2.25m (7.5尺)、東西方向が2.4m (8尺)。柱穴の掘方は隅丸方形の壺掘りで、規模は長辺で75～100cm。深さはP01・02・06が45～55cmと深い、P03・04・05・07・08は20～30cmと浅い。埋土は、ロームブロックを含む暗褐色土、褐色土、黄褐色土、黒褐色土で突き固められている。柱抜き取り穴は確認されていない。各柱穴で、柱痕跡や柱の当たりが確認された。円形で径20～25cm。埋土から9世紀前半の土師器杯(1)や須恵器高台杯(2)が出土しており、9世紀前半の造営と考えられる。

SP03 SB01の東西柱穴列の延長上で確認された。径45cmの円形で、深さは15cmだが、柱の当たり痕跡が確認された。円形で径20cm。

⑧遺物 1は土師器の杯。底径80mm(復元)。外面灰褐～黒色、内面黒色。炭素吸着による黒色処理。白色粒(極小・少)・赤色粒(極小・微)・透明粒(極小・微)・角閃石・骨針を含む。焼成良好。SB01-P01埋土出土。2は須恵器の高台杯。灰色。白色粒・砂粒・赤色粒(極小・少)を含む。焼成良好。SB01-P05埋土出土。3は砥石。重量428g。SP04出土。4は平瓦。灰色。白色粒(～小)・砂粒(～小・少)・骨針・透明粒(極小・少)を含む。焼成良好。SP04出土。5・6は縄文土器で遺構検出時に出土した。5は赤褐～暗赤褐色。白色粒(極小・多)・白雲母(～中・多)・赤色粒(極小・微)・骨針を含む。焼成良好。6は橙褐～淡褐色。白色粒(極小・少)・赤色

粒（極小・微）・砂粒（極小）・角閃石・骨針を含む。焼成良好。

⑨まとめ 今回の調査地点は、特別史跡常陸国分尼寺跡の東側隣接地にあたり、9世紀前半の掘立柱建物跡1棟が検出された。北側隣接地は昭和62年度に発掘調査が行われ、9世紀前半の竪穴建物跡5軒が検出され、墨書土器や二彩土器（仏鉢）が出土している（図12、旧若松遺跡、石岡市教育委員会1988）。常陸国分尼寺跡で

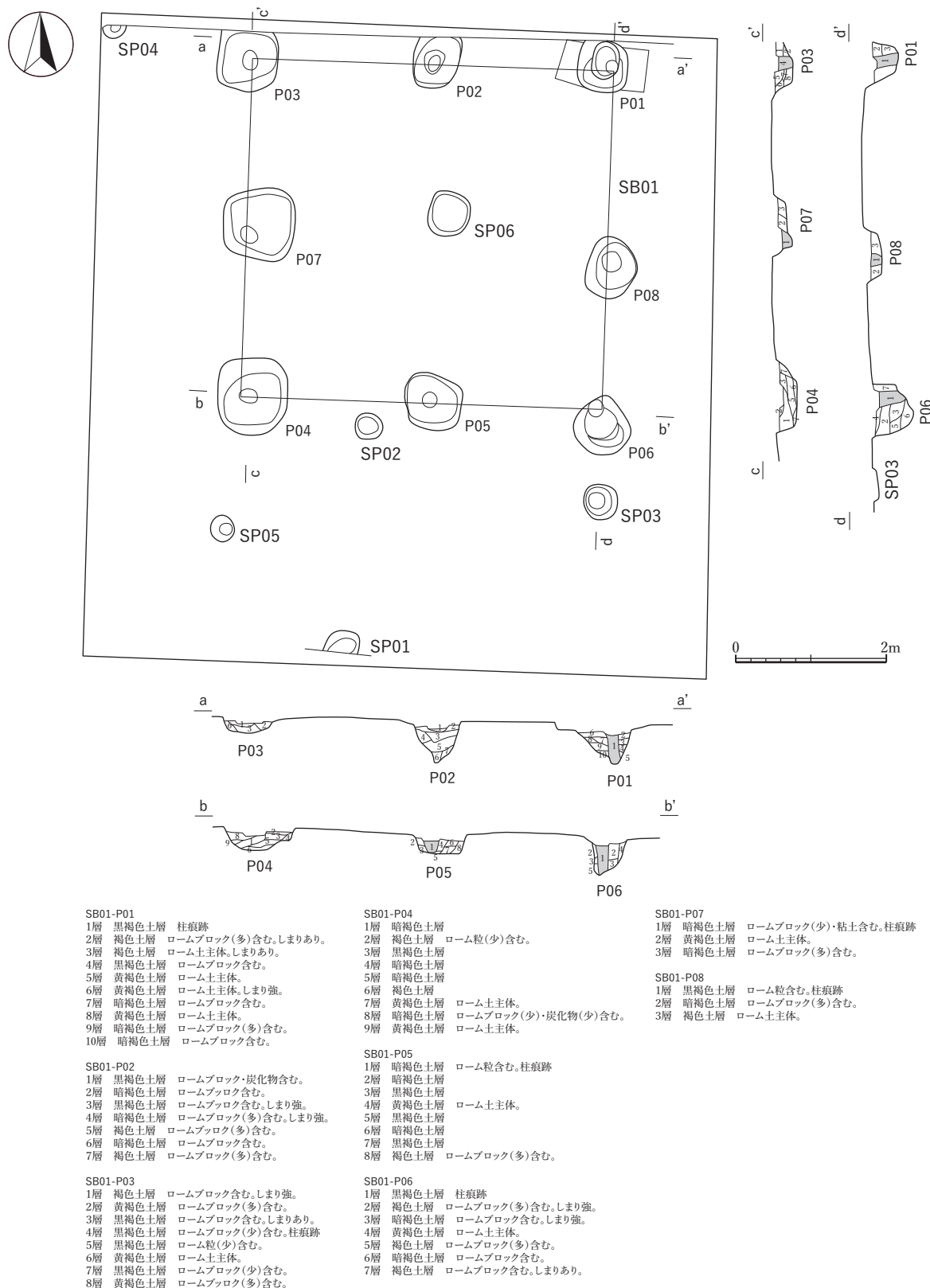


図10 尼ヶ原遺跡 全体図 (S=1/80)

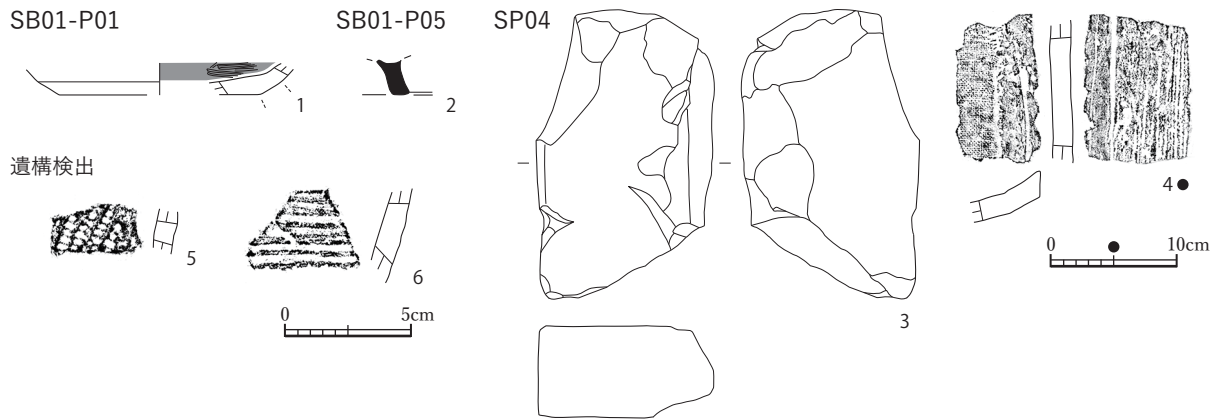


図 11 尼寺ヶ原遺跡 出土遺物 (S=1/3・1/6)

は、主要堂塔を囲む溝から 8 世紀末～9 世紀初頭の須恵器杯が出土しており、9 世紀前葉に埋め戻され、伽藍の再編が行われる（堀越 1984）。

今回の調査で検出された掘立柱建物は、北側の竪穴建物群とともに 9 世紀前半に位置付けられることから、尼寺の再編に伴う建物群（黒澤 1990）や、尼寺の維持に関わる人々の集落（川井 1995）の可能性が考えられる。しかしながら、今回は限られた範囲の調査であり、建物の規模や継続性は不明であり、性格を含め今後の課題としたい。

引用文献

- 石岡市教育委員会 1988 『若松遺跡発掘調査報告書』
- 川井正一 1995 「奈良・平安時代」『石岡市の遺跡』石岡市教育委員会
- 黒澤彰哉 1990 「古代の常陸国府」『婆良岐考古』第 12 号
- 堀越 徹 1984 「常陸国分尼寺について」『婆良岐考古』第 6 号

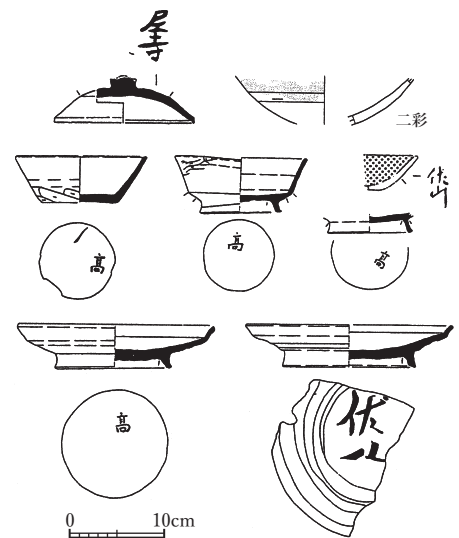


図 12 尼寺ヶ原遺跡 (昭和 62 年度発掘) 墨書土器・二彩土器 (S=1/8)

3 根古屋遺跡 (第 5 次)

①所在地 石岡市東大橋字蓬莱 1913 番ほか
 ②調査面積 10㎡ ③調査日 平成 26 年 3 月 17 日～31 日 ④調査原因 市道 A4009 号線改良工事 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 根古屋遺跡は、園部川右岸の台地縁辺部から台地上に所在する（遺跡番号 08-205-083）。市道 A4009 号線改良工事に伴い「埋蔵文化財所在の有無及びその取扱いについて」照会文書の提出があり、市教育委員会では平成 26 年 2 月 6 日～17 日に試掘調査を行った。開発区域内に 24ヶ所の試掘トレンチを人力にて設定し遺跡の有無を確認したところ、T-18 において土坑 SK01、T-22 において土坑 SK02、T-24

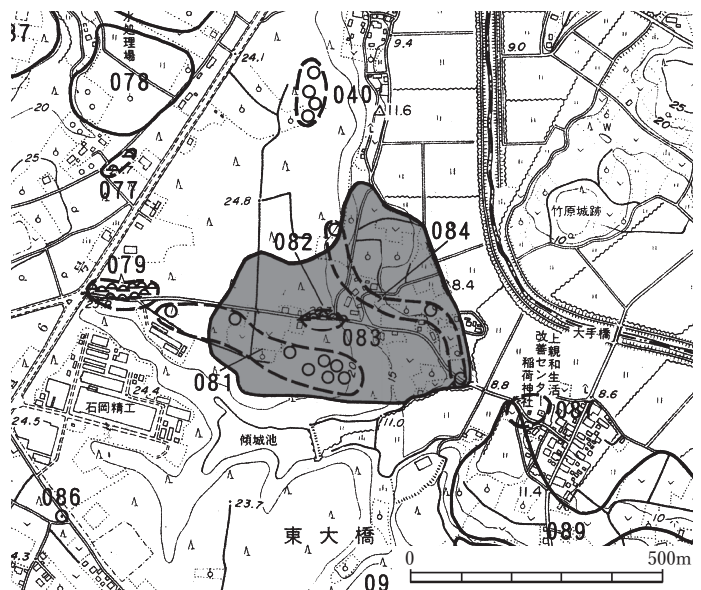


図 13 根古屋遺跡 位置図 (S=1/15,000)

表1 根古屋遺跡 調査履歴一覧

調査回数	調査年度	調査種類	所在地	調査原因	調査期間	主な遺構(時期・遺物)	報告
第1次	H17	試掘発掘	東大橋 605-1 ほか	市道改良	20051006 ~ 20051013 20051028 ~ 20051125	溝(中世)・土坑(縄文)	市内遺跡1 市内遺跡5
第2次	H21	試掘	東大橋 1792-1	共同住宅建設	20091117 ~ 20091118	竪穴建物・土坑(縄文)	市内遺跡6
第3次	H22	試掘	東大橋 605-1	移動通信用基地局建設	20101224	なし	市内遺跡7
第4次	H24	試掘	東大橋 1783 ほか	グラウンドゴルフ場整備	20121129 ~ 20121212	土坑(縄文)	市内遺跡9
第5次	H25	試掘発掘	東大橋 1913 ほか	市道改良	20140206 ~ 20140217 20140317 ~ 20140331	土坑(縄文)・溝	市内遺跡10 本書
第6次	H27	試掘	東大橋 635-1	個人住宅建設	20150707	なし	
第7次	H27	試掘	東大橋 1792-1	集合住宅建設	20150810	竪穴建物・土坑(縄文)	
第8次	H29	試掘	東大橋 548-2	個人住宅建設	20170817	なし	
第9次	R1	試掘	東大橋 607-1	移動通信用基地局建設	20191015	なし	

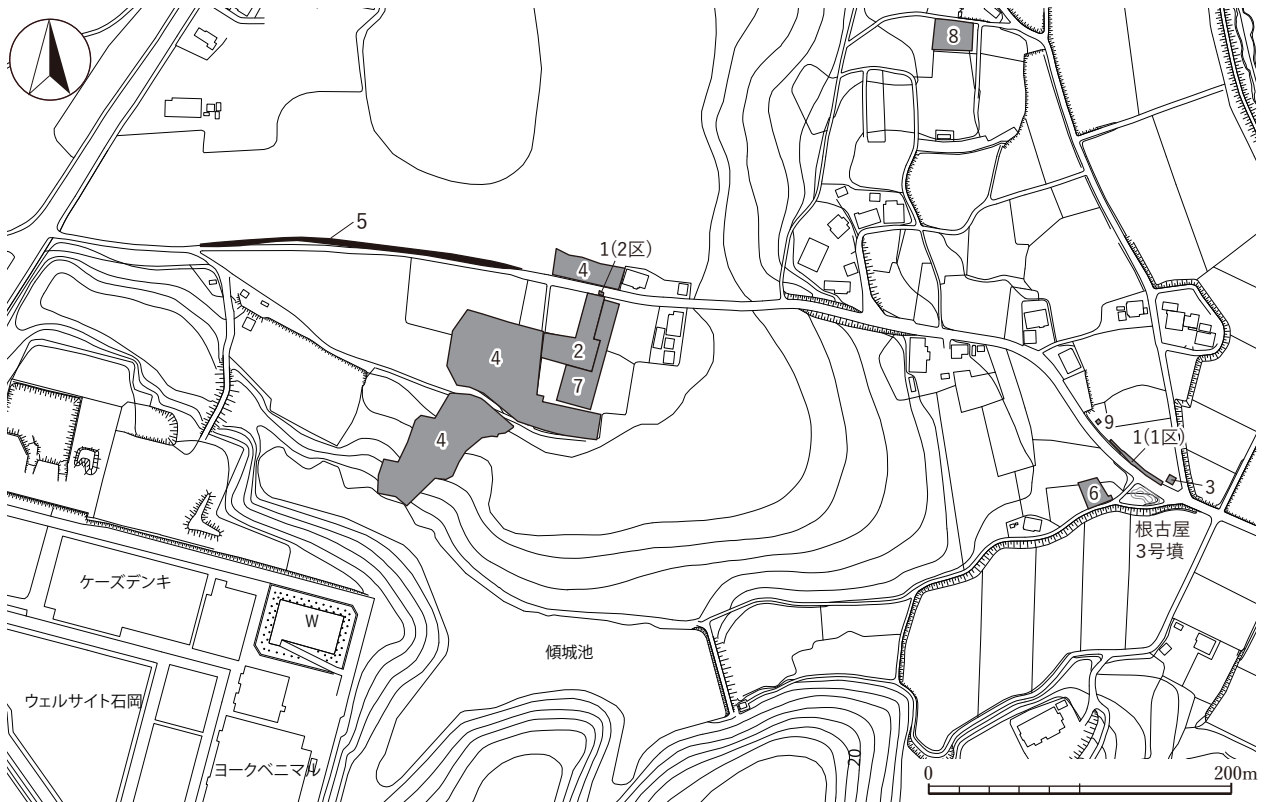


図14 根古屋遺跡 調査地点位置図 (S=1/5,000)

において溝 SD01 を確認した。遺構の時期・性格把握のために掘り下げを行ったところ、SK01 から遺物の出土はなかったが、SK02 からは縄文土器や石器が、SD01 からは縄文土器が出土した。

石岡市長より2月27日付けで茨城県教育委員会あて「埋蔵文化財発掘の通知」が提出された。茨城県教育委員会より3月5日付けで、遺構が検出された箇所については工事着手前に発掘調査を実施するように、そのほかの工事にあたっては市教育委員会が立ち会うように通知があった。

これらを受け、遺構が検出された T-22 および T-24 を中心とした発掘調査を3月17日より着手し、3月31日に終了した。表土剥ぎおよび埋め戻しを含め、すべての作業は人力にて行った。

確認された遺構は、土坑1基 (SK02) および溝1条 (SD01) である。

⑦遺構 SK02 東西幅2.4m以上、南北幅1.9m以上の不整形円形。縄文時代中期の土器(1)および打製石斧(2)、磨石(3)が出土している。出土遺物から縄文時代中期と考えられる。

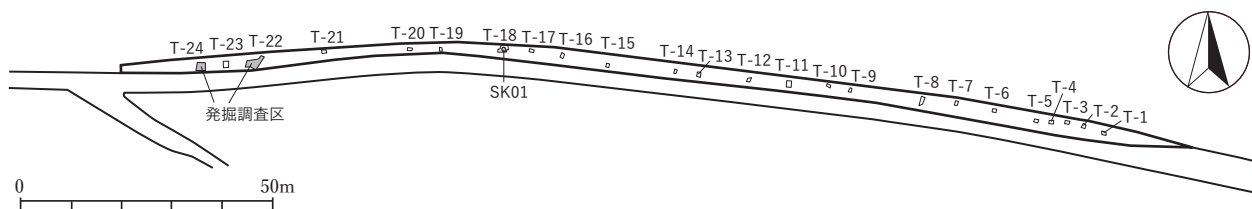


図 15 根古屋遺跡 (第 5 次) 全体図 (S=1/1,500)

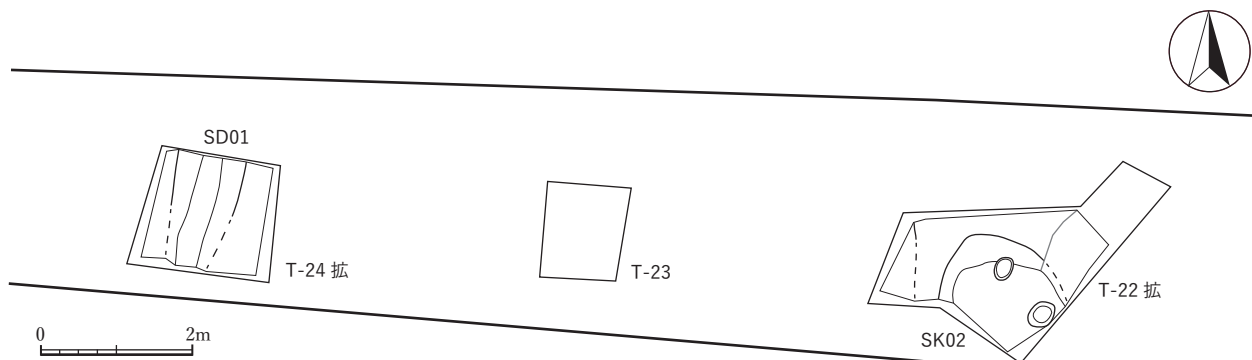


図 16 根古屋遺跡 (第 5 次) 発掘調査区全体図 (S=1/100)

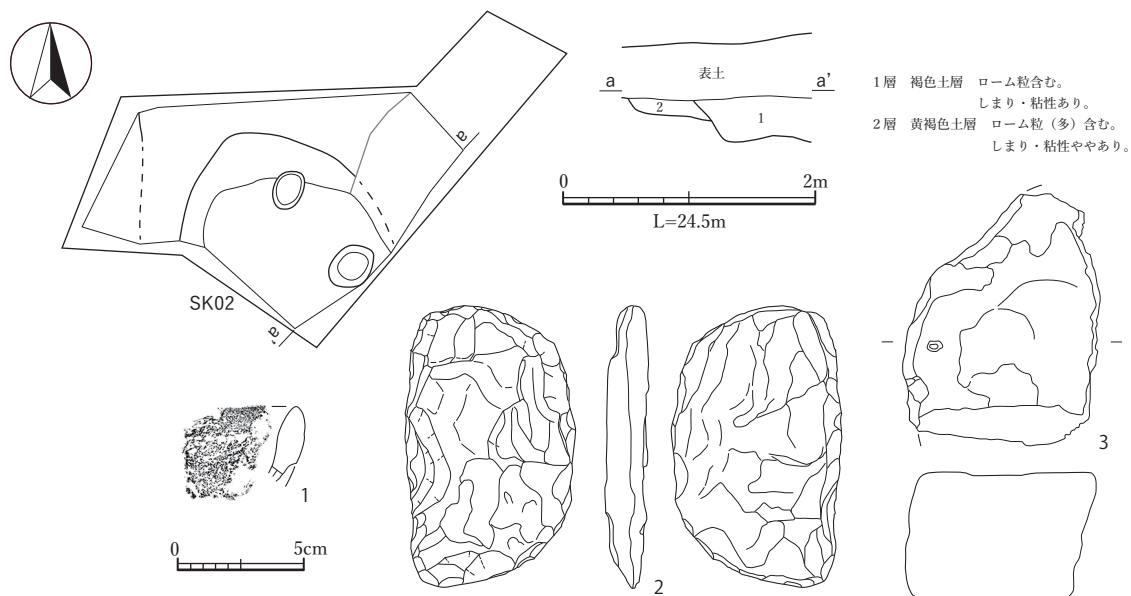


図 17 SK02 (S=1/60・1/3)

SD01 南北方向で上面幅 55～90cm、深さ 25cm。縄文土器片が出土しているが、時期は特定できない。

⑧遺物 1～3はSK02より出土した。1は縄文土器。1列単位の角押文が施される。阿玉台I式。暗赤褐～赤褐色。白色粒(～小・大)・黒雲母(～中)・砂粒(～大・少)・透明粒(～中・少)・白雲母(極小・微)を含む。焼成良好。2は打製石斧。全長11cm、幅6.7cm、重量140g。3は磨石。重量531g。

⑨まとめ 根古屋遺跡の調査は本報告を含め9次にわたり、縄文時代中期の竪穴建物跡や土坑、中世の溝が検出されている(図14・表1)。今回の調査地点は遺跡の西端部分にあたる。遺構の密度は低かったが、縄文時代中期の土坑や時期不明の溝を検出したことから、遺跡の広範な展開を確認することができたといえる。

引用文献

石岡市教育委員会 2006 『石岡市内遺跡調査報告書』

石岡市教育委員会 2010・2012・2013・2014・2015 『市内遺跡調査報告書』第5・7・8・9・10集

Ⅲ そのほかの調査

1 府中城跡（第3地点）

①所在地 石岡市総社一丁目421番86外 ②開発面積 820㎡ ③調査日 平成25年1月23日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 府中城跡第3地点は、平成16・22年度に試掘調査（第3地点-1・2、『市内遺跡調査報告書』第3・7集、2008・2012年）を行い、古代の竪穴建物跡や中世～近世の土坑などが確認された。開発地のうち、西側の私道部分については平成23年度に発掘調査を実施している（第3地点-3、『府中城跡－私道建設に伴う調査－』2011年）。東側の個人住宅部分については工事立会いを実施しており、その際の出土資料を報告する。⑦遺物 1は銭貨である。径23.2mm、孔6.6mm。摩耗と錆のため、銭名は判読できない。なお、第3地点-3では、永楽通宝1枚、寛永通宝2枚が出土している。

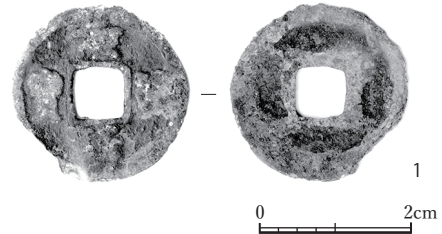
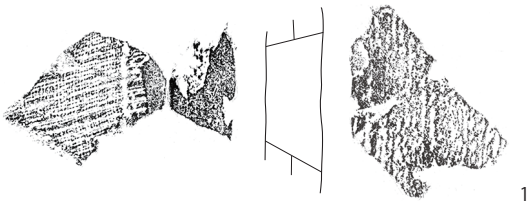


図18 府中城跡（第3地点）
出土遺物（S=1/1）

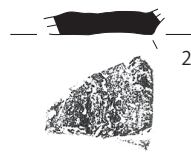
2 杉ノ井遺跡（第7・8地点）

①所在地 石岡市杉の井12618番3、4、5 ②開発面積 312㎡（第7地点）、486㎡（第8地点） ③調査日 平成26年1月16日（第7地点）、平成26年3月12日～24日（第8地点） ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 杉ノ井遺跡第7・8地点は、個人住宅建設に伴い平成25年度に試掘調査を実施した。北北東－南南西方向に走行する幅約1.5mの溝1条（SD01）を確認し、その概要は『市内遺跡調査報告書』第10集（石岡市教育委員会2015）に掲載した。トレンチおよびSD01覆土から遺物が出土しているが、未報告であったことから、ここで報告する。⑦遺物 1は第7地点T-9出土の平瓦。灰～灰白色。白色粒（～小）・半透明粒（～小・少）を含む。焼成良好。2は第8地点SD01出土の須恵器の杯。灰色。半透明粒（～大・少）・白色粒（～中・少）を含む。焼成良好。3～5は第8地点T-2出土。3は須恵器の有台盤。口径218mm（復元）、器高30mm、台部径150mm（復元）。灰色。白色粒（～中・少）・黑色粒（～中・少）・砂粒（～大・少）を含む。焼成良好。10%残存。4は鉄滓。重量114g。5は大正12年製造の十銭硬貨。

第7地点 T-9



第8地点 SD01



第8地点 T-2

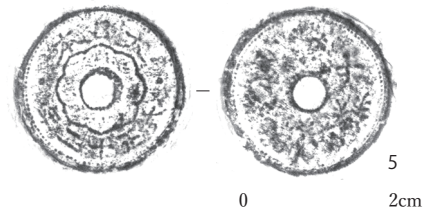
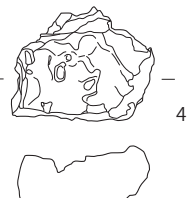
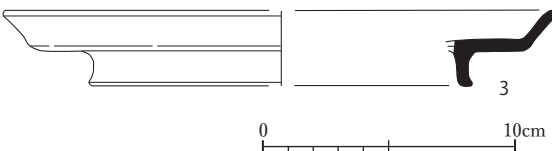


図19 杉ノ井遺跡（第7・8地点）出土遺物（S=1/3・1/1）

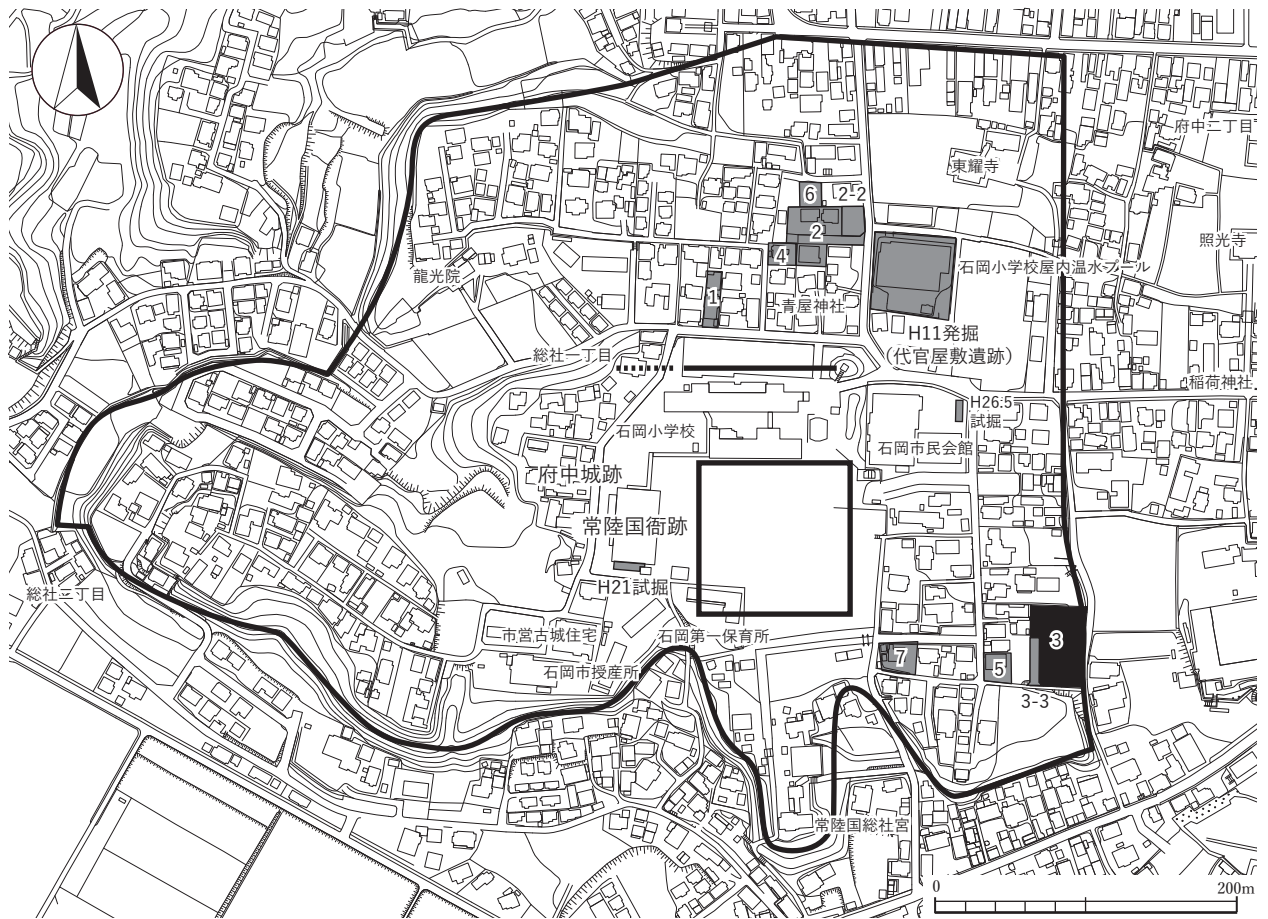


図20 府中城跡 調査地点位置図 (S=1/5,000)



図21 府中城跡 (第3・5地点) 全体図 (S=1/500)

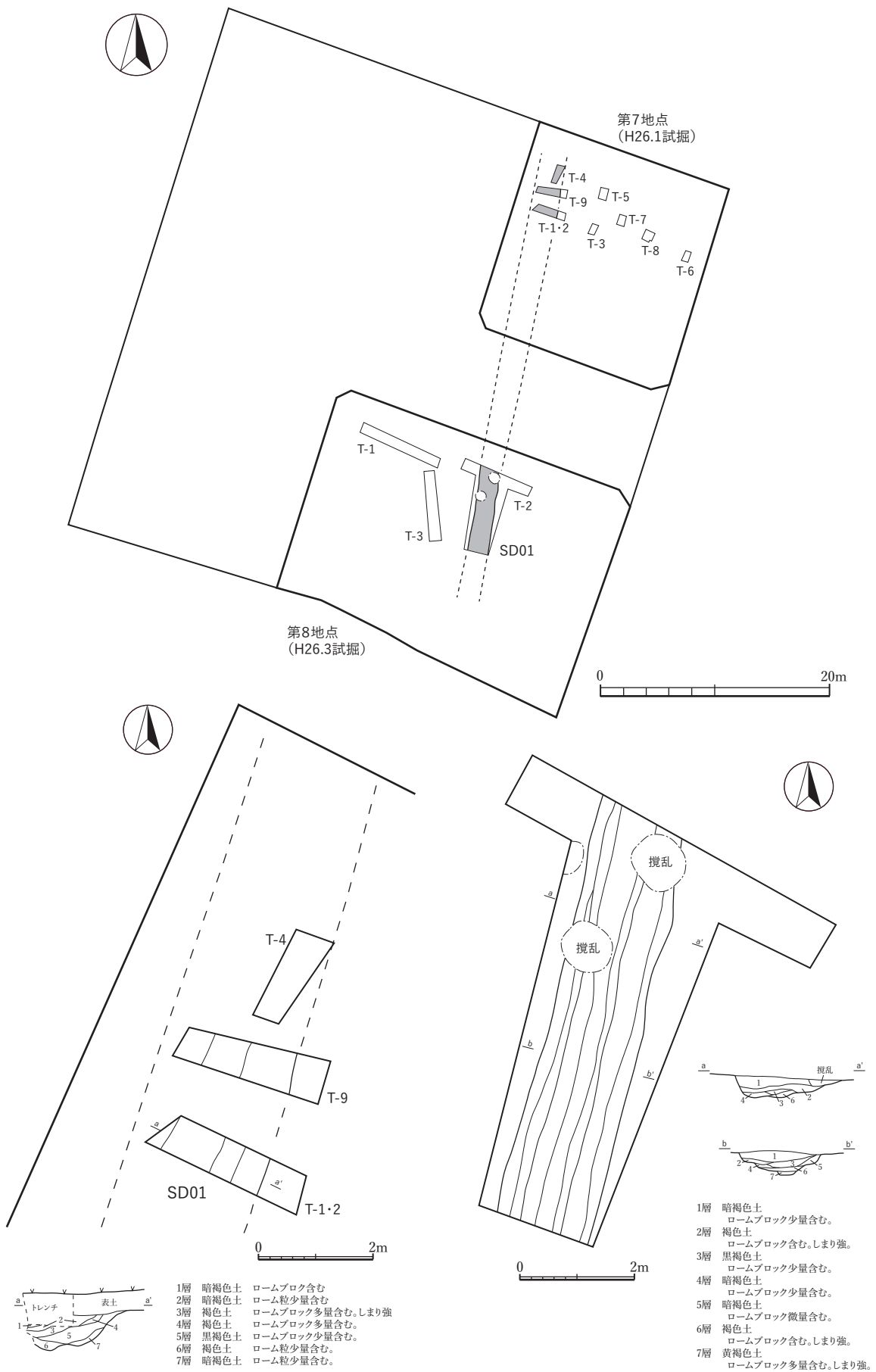


図22 杉ノ井遺跡(第7・8地点)(S=1/500・1/100)

3 木間塚遺跡（第16地点）

①所在地 石岡市杉並四丁目12979番6 ②開発面積 1,149㎡ ③調査日 平成26年1月17日 ④調査原因 太陽光発電施設設置 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 木間塚遺跡第16地点は、太陽光発電施設設置に伴い平成25年度に試掘調査を実施した。概要は『市内遺跡調査報告書』第10集（石岡市教育委員会2015）に報告し、「遺構・遺物は確認されなかった」とした。しかし、その後の整理作業において、トレンチ（T-1）より奈良・平安時代の平瓦が1点出土していたのを確認した。記述を訂正するとともに、ここで報告する。 ⑦遺物 1はT-1出土の平瓦。灰褐～褐色。白色粒（～小・少）・黒色粒（～小・少）・赤色粒（～小・少）・半透明粒（～中・少）を含む。

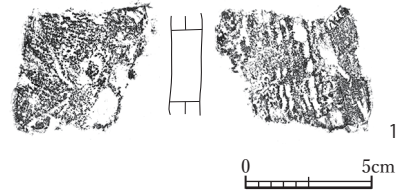


図23 木間塚遺跡（第16地点）出土遺物（S=1/3）

4 弥陀ノ台遺跡

①所在地 石岡市小井戸字本堀484番2、297番 ②開発面積 2,077㎡ ③調査日 平成26年2月25日～26日 ④調査原因 住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 弥陀ノ台遺跡は、住宅建設に伴い平成25年度に試掘調査を実施した。竪穴建物跡や土坑、ピットを確認し、その概要は『市内遺跡調査報告書』第10集（石岡市教育委員会2015）に掲載した。トレンチから古墳時代や奈良・平安時代、中世の土器が出土しているが、未報告であったことから、ここで報告する。 ⑦遺物 1・2は



図24 弥陀ノ台遺跡 調査地点位置図（S=1/10,000）

T-3出土の土師器の高台碗。1は口径180mm（復元）。白雲母（極小・少）・白色粒（～小・少）・赤色粒（～小・少）・黒色粒（～小・少）を含む。焼成良好。図示中15%

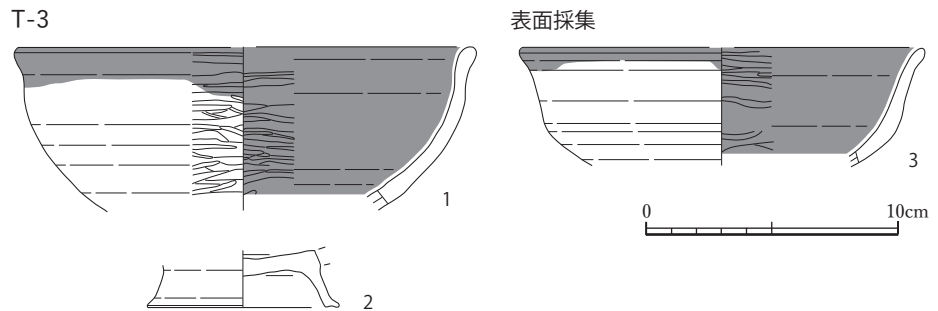


図25 弥陀ノ台遺跡 出土遺物（S=1/3）

残存。外面橙褐～黒色、内面黒色。炭素吸着による黒色処理。焼成良好。2は高台径76mm(復元)。白雲母(極小・微)・白雲母(極小・多)・骨針を含む。外面赤褐色、内面暗褐～黒褐色。焼成良好。図示中30%残存。3は表面採集した土師器の高台椀。口径160mm。白雲母(～極小)・白色粒(～極小・微)を含む。外面橙褐～黒色、内面黒色。炭素吸着による黒色処理。焼成良好。図示中30%残存。

5 鹿の子遺跡(第51次)

①所在地 石岡市鹿の子一丁目9359番2 ②開発面積 446㎡ ③調査日 平成26年3月24日 ④調査原因 個人住宅建設 ⑤調査担当者 谷仲俊雄 ⑥調査概要 鹿の子遺跡第51次は、個人住宅建設に伴い平成25年度に試掘調査を実施した。竪穴建物跡1棟(SI01)および土坑1基(SK01)を確認し、その概要は『市内遺跡調査報告書』第10集(石岡市教育委員会2015)に掲載した。トレンチの表土中および遺構確認面から奈良・平安時代の土器・瓦が出土しているが、未報告であったことから、ここで報告する。 ⑦遺物 1はT-1出土の灰釉陶器。白色粒(～小・微)・黒色粒(～小・少)・砂粒(～小・微)を含む。素地灰色、釉オリーブ灰色。焼成良好。図示中25%残存。

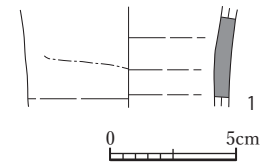


図26 鹿の子遺跡(第51次)出土遺物(S=1/3)

6 長堀古墳群

石岡市柿岡の長堀2号墳および6号墳で採集した資料を紹介する。

長堀2号墳は墳丘長約46mの前方後方墳である。昭和47年に早稲田大学考古学研究室が測量調査を行い(早稲田大学考古学研究室1973)、平成22年には石岡市教育委員会が再測量調査を行っている(石岡市教育委員会2012)。1・2は、採集された土師器の壺である。1は外面橙褐～淡褐色、内面暗褐～暗橙褐色。砂粒(～大・多)・透明粒(極小・微)・白色粒(～小・少)・骨針(極小・微)・白雲母(極小・微)を含む。焼成良好。2は外面橙褐色、内面暗褐色。白色粒(～小・多)・砂粒(～大)・赤色粒(～大・少)・透明粒(極小・微)を含む。焼成良好。

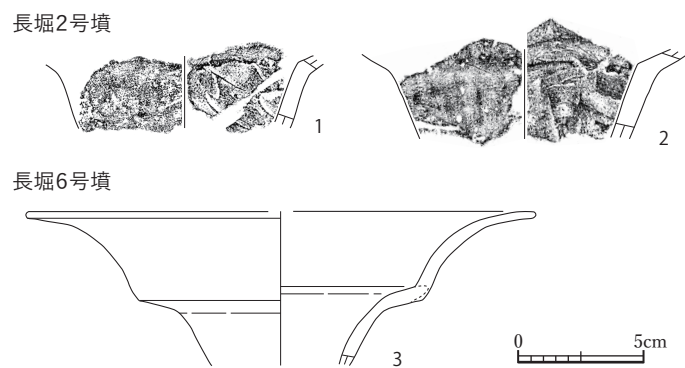


図27 長堀古墳群 採集土器(S=1/3)

長堀6号墳は現在径30m程度の円墳状だが、『常陸丸山古墳』(後藤・大塚1957)での「長堀第8号墳」と考えられる。「長堀第8号墳」は墳丘長43mの前方後円墳で、後円部と前方部との比高差が大きいことから、「長堀支群の4基の前方後円墳中最も古い形式にあたる」とされた。残念ながら現在では前方部は削平されてしまったことになる。3は採集された土師器の壺である。口径202mm(復元)。橙褐色。白色粒(～小・少)・白雲母(極小)・透明粒(極小・多)・赤色粒(～大・少)・砂粒(～小・少)・骨針(微)を含む。焼成良好。図示中20%残存。長堀6号墳は、これまでも二重口縁壺等が採集されており(石岡市教育委員会2012)、今回の採集資料や『常陸丸山古墳』の墳丘観察結果と合わせ、前期古墳と位置付けることができる。

引用文献

石岡市教育委員会2012『市内遺跡調査報告書』第7集

後藤守一・大塚初重1957『常陸丸山古墳』丸山古墳顕彰会

早稲田大学考古学研究室1973「福田古墳群第9号墳・長堀古墳群2号墳・柏崎古墳群富士見塚古墳の測量調査報告」『茨城考古学』第5号

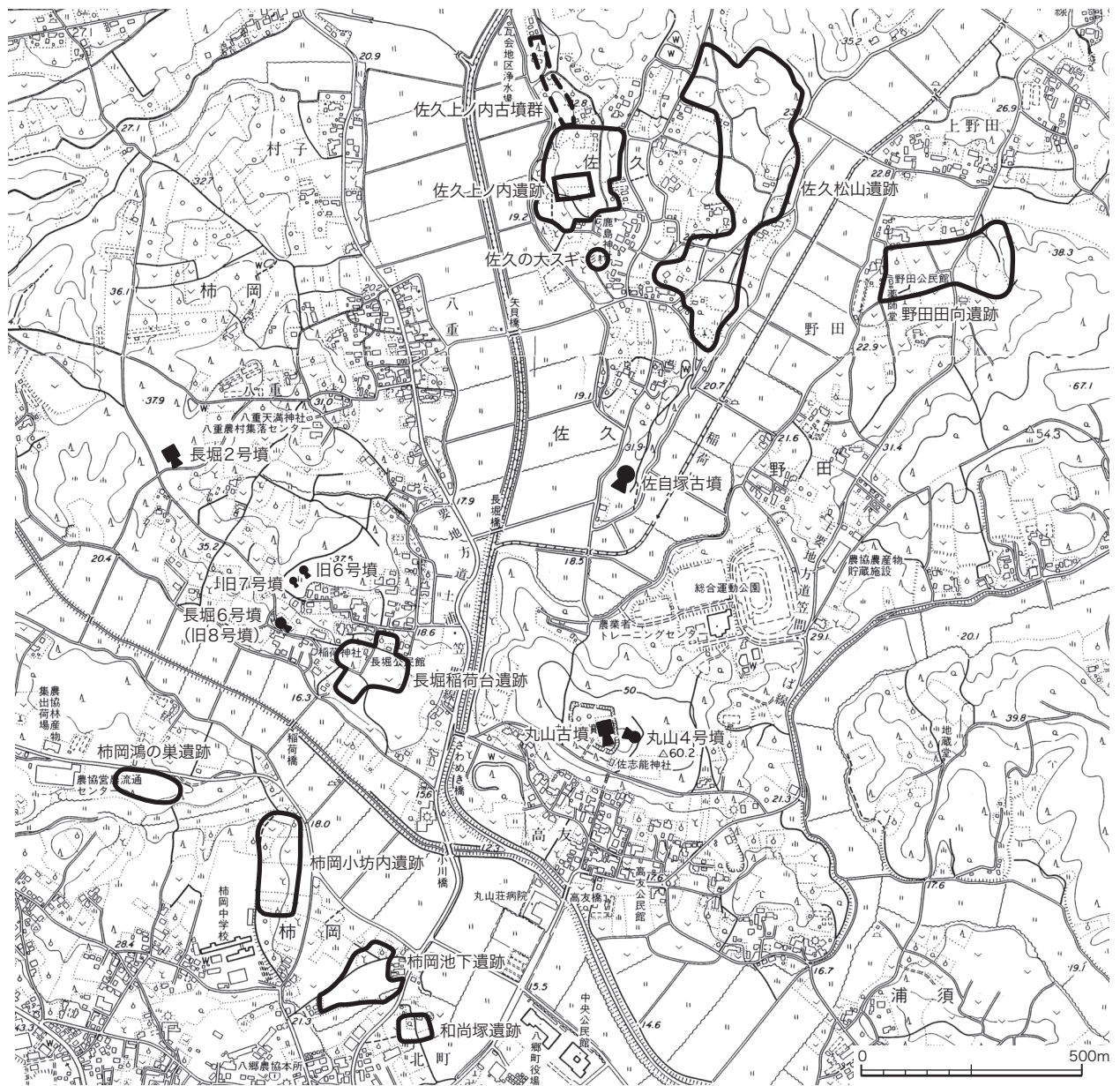


図 28 長堀古墳群 位置図 (S=1/15,000)

IV 埋蔵文化財包蔵地の新規登録と範囲変更 (平成 27 年度～令和 2 年度)

石岡市内には現在 399 箇所の埋蔵文化財包蔵地が存在する。これらの範囲を示すものとして、『石岡市遺跡分布調査報告』(石岡市教育委員会・石岡市遺跡分布調査会 2001) および『茨城県遺跡地図』(茨城県教育委員会 2001) が発行されている。だが、発行後の現地踏査や試掘調査などによって新規発見や範囲変更が生じていることから、平成 24 年度までの新規発見・範囲変更については『市内遺跡調査報告書 第 8 集』(2013 年)、平成 25・26 年度については『市内遺跡調査報告書 第 10 集』(2015 年) に報告した。今号ではそれらに続き、平成 27 年度から令和 2 年度の新規発見・範囲変更について、一覧表の形で報告する。なお、包蔵地の位置や範囲については既存のものを含め、「いばらきデジタルマップ」で公開している。

新規発見

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	新規登録年度
463-148	柿岡江垂遺跡	柿岡字江垂 3655-8 外	縄文、奈良・平安、中世	集落跡	令和 2 年度

範囲変更

遺跡番号	遺跡名	所在地	時代	種別	範囲変更年度
205-062	一本杉遺跡	若松一丁目 5-36 外	弥生、奈良・平安、近世	集落跡	平成 30 年度
205-066	国分遺跡	府中五丁目 11-1 外	縄文、奈良・平安、中世、近世	集落跡	令和元年度
205-107	小目代遺跡	貝地一・二丁目	縄文、奈良・平安、中世、近世	集落跡	平成 28 年度
205-109	税所屋敷遺跡	茨城一丁目 12-21 外	縄文、弥生、奈良・平安、近世	集落跡	平成 29 年度
205-151	中津川遺跡	中津川字上富田 31-1 外	縄文、弥生、古墳、奈良・平安、中世、近世	集落跡	令和元年度
463-062	長堀稲荷台遺跡	柿岡 4467-1 外	縄文、古墳、奈良・平安、中世	集落跡	平成 28 年度
463-072	青柳要害跡	上青柳字勇害 446 外	中世	城館跡	令和 2 年度
463-088	矢切遺跡	瓦谷 2424-2 外	縄文	包蔵地	平成 30 年度
463-134	佐久松山遺跡	佐久 290 外	古墳、奈良・平安	集落跡	令和 2 年度

尼寺ヶ原遺跡



1. 全景 (東から)



2. 遺構検出風景 (北西から)



3. SB01-P01 (南東から)



4. SB01-P06 (東から)



5. SB01-P08 (東から)

写真図版 2

根古屋遺跡 (第5次)



1. T-18 SK01 (東から)



2. T-24 SD01 (南から)



3. T-22 SK02 (南東から)

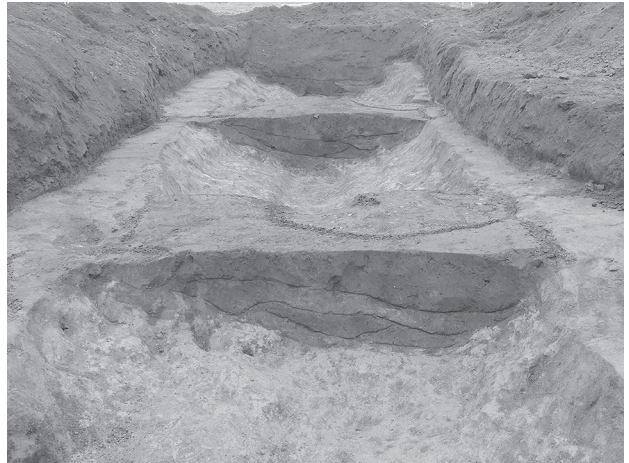


4. T-22 SK02 (北西から)

杉ノ井遺跡 (第8地点)



1. 全景 (北から)



2. SD01 土層 (北から)



写真図版 4

宇治会新立遺跡



図 6-1



図 6-2



図 6-3



図 6-4-5-6

尼寺ヶ原遺跡



図 11-1-2



図 11-5-6

根古屋遺跡 (第5次)



図 17-1-2



図 17-3

報告書抄録

ふりがな	しないいせきちようさほうこくしょ							
書名	市内遺跡調査報告書							
副書名	第12集							
シリーズ名	石岡市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号								
編著者	谷仲俊雄							
編集機関	石岡市教育委員会							
所在地	〒315-0195 茨城県石岡市柿岡 5680 番地 1 TEL 0299-43-1111 (代) FAX 0299-43-3130							
発行年月日	2021 (令和3) 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	開発面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
うじえにいだちいせき 宇治会新立遺跡	いばらきけんいしおかしうじえ 茨城県石岡市宇治会字新立	08463	139	36 度 16 分 43 秒	140 度 11 分 07 秒	20100119 ～ 20100120	1,125	駐車場整備 に伴う試掘 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
宇治会新立遺跡	集落	古墳時代	竪穴建物跡 1、土坑 1	土師器		古墳時代中期の竪穴建物跡を検出した。		
要約	恋瀬川右岸の台地上に所在し、今回の試掘調査により新たに発見された遺跡である。古墳時代中期の竪穴建物跡 1 棟を検出した。建物跡からは高杯 4 個体以上がまとまって出土した。							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ひたちこくぶんじあと 常陸国分寺跡	いばらきけんいしおかしふちゆう 茨城県石岡市府中五丁目	08205	067	36 度 11 分 44 秒	140 度 16 分 26 秒	20000221 ～ 20000223	20	大師堂建替 に伴う発掘 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
常陸国分寺跡	寺院	奈良・平安時代	なし	瓦、土師器		遺構は確認されなかった。		
要約	恋瀬川と山王川に挟まれた台地上に所在する。今回の調査地は中門と金堂を結ぶ回廊に囲まれた区画、金堂院内に位置するが、遺構は確認されなかった。							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
にじがほらいせき 尼寺ヶ原遺跡	いばらきけんいしおかしわかまつ 茨城県石岡市若松三丁目	08205	061	36 度 12 分 05 秒	140 度 16 分 09 秒	20131203 ～ 20131224	70	個人住宅建 設に伴う記 録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
尼寺ヶ原遺跡	集落	縄文時代、奈良・平安時代	掘立柱建物跡 1	縄文土器、土師器、須恵器、瓦、石製品		9 世紀前半の掘立柱建物跡を検出した。		
要約	恋瀬川と山王川に挟まれた台地上、常陸国分尼寺跡の周辺に所在する。今回の調査地点は特別史跡常陸国分尼寺跡の東側隣接地にあたり、9 世紀前半の掘立柱建物跡が検出された。北側隣接地では、9 世紀前半の竪穴建物跡が検出され、墨書土器や二彩土器が出土していることから、これらとともに尼寺の再編や維持管理に関わった建物群・集落と考えられる。							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
ねごやいせき 根古屋遺跡 (第 5 次)	いばらきけんいしおかしひがしおおほし 茨城県石岡市東大橋字蓬莱	08205	083	36 度 12 分 05 秒	140 度 18 分 21 秒	20140317 ～ 20140331	10	市道改良工 事に伴う記 録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
根古屋遺跡	集落	縄文時代	土坑 1、溝 1	縄文土器、石器		縄文時代中期の土坑および時期不明の溝を検出した。		
要約	園部川右岸の台地縁辺部から台地上に所在する。本報告を含め 9 次につながる調査が行われており、縄文時代中期の竪穴建物跡や土坑、中世の溝が検出されている。今回の調査地点は遺跡の西端部分にあたる。遺構の密度は低かったものの、縄文時代中期の土坑や時期不明の溝を確認したことから、遺跡の広範な展開を確認することができた。							

市内遺跡調査報告書
第12集

2021（令和3）年3月31日発行

編集 石岡市教育委員会 文化振興課

発行 石岡市教育委員会

〒315-0195 茨城県石岡市柿岡5680番地1

TEL 0299-43-1111(代)

FAX 0299-43-3130

印刷 共和印刷株式会社

〒315-0001 茨城県石岡市石岡2747-68
